

上田市文化財調査報告書第 113 集

市 内 遺 跡

平成 22 年度市内遺跡発掘調査報告書

2011.3

上 田 市
上田市教育委員会

上田市文化財調査報告書第 113 集

市 内 遺 跡

平成 22 年度市内遺跡発掘調査報告書

2011.3

上 田 市
上田市教育委員会

例 言

- 1 本書は長野県上田市における各種開発事業に伴う平成22年度市内遺跡発掘調査報告書である。なお、新市発足に伴い、現在、埋蔵文化財分布図の統合作業を進めているところであり、本文中の遺跡番号等は合併前の市町村のものを引き続いて使用している。
- 2 調査は国庫補助事業として上田市（上田市教育委員会事務局文化振興課文化財保護係）が実施した。調査期間は準備及び報告書刊行を含めて、平成22年4月1日から平成23年3月25日までである。
- 3 現地調査は文化振興課文化財保護係 和根崎剛が行った。
- 4 試掘調査は主としてバックホーによるトレンチ調査を行った。バックホーの賃貸借（オペレータ付き）は、和農興・竹内和好と賃貸借単価契約（0.2級・0.4級）を締結して行った。
- 5 調査に係る資料は、上田市立信濃国分寺資料館に保管してある。
- 6 調査に係る事務局体制は、次のとおりである。
〈事務局〉上田市教育委員会 文化振興課 文化財保護係
教育長 小山壽一 文化財保護係長 尾見智志（平成22年4月30日退任）
教育次長 小市邦夫 久保田敦子（平成22年5月1日着任）
文化振興課長 中部通男 文化財保護係 中沢徳士・小林 伝・和根崎剛
- 7 調査に係る作業分担は次のとおりである。
現地調査 和根崎
現場作業 新井邦雄・川上京子・川上恒夫・滝澤百合香・竹内和好・村松秋恵
整理作業 和根崎・上原祐子・久保田夕佳・高橋和裕・高橋春美・滝澤百合香
写真撮影 和根崎
- 8 調査にあたって、施工主及び関係行政機関等の皆さんには、現場の日程調整等で格段のご理解とご協力をいただいた。深く感謝の意を表したい。
- 9 調査にあたり、多くの方々から出土した遺構・遺物等についてご指導を賜った。ご芳名を記して、深く感謝の意を表したい。
川上元・倉澤正幸、児玉卓文、助川朋広（順不同・敬称略）
- 10 本書の作成に係る引用・参考文献等は次のとおりである。
『上田市の原始・古代文化 埋蔵文化財分布調査報告書』上田市教育委員会 昭和52（1977）年
『上田市文化財分布図』上田市教育委員会 平成8（1996）年
『真田町の遺跡－遺跡詳細分布調査報告書－』真田町教育委員会 平成12（2000）年
※掲載した遺跡の発掘調査の経過及び結果については、上田市文化財調査報告書等を参考にした。
※文献引用箇所は原文のままであるため、現在の研究成果及び用語、見解とは異なる場合がある。

< 目 次 >

(1) 国分遺跡群 1 (個人住宅新築工事)	1
(2) 萩の館跡推定地 (傍陽小学校校舎改築工事)	3
(3) 八幡裏遺跡群 (個人住宅改築工事)	5
(4) 常入遺跡群 (店舗及びアスファルト敷駐車場改築工事)	7
(5) 染屋台条里水田跡遺跡 (集合住宅及びアスファルト敷駐車場新築工事)	9
(6) 国分遺跡群 2 (市道改築に係る個人住宅改築工事)	11
(7) 八幡裏遺跡群 (工場建物解体及び商業用地造成予定地)	13
(8) 新田遺跡 (老人福祉施設建設予定地)	15
(9) 四日市遺跡 (宅地造成予定地)	17
(10) 小泉条里水田跡遺跡 (上田市川西地域自治センター及び川西公民館改築予定地) ...	19
出土遺物	21
試掘調査地点位置図	23
染屋台条里水田跡遺跡における調査状況	27
写真図版	31
報告書抄録	

(1) 国分遺跡群 1 (市遺跡番号 上田 54)

1 調査地	上田市国分字堂裏
2 原因	個人住宅新築 (法第 93 条)
3 調査日	平成 22 年 4 月 15 日 (木) ~ 16 日 (金)
4 調査方法	0.2 級バックホーで幅任意のトレンチを 3 本掘削した
5 調査面積	361.05 m ² (トレンチ 127 m ²)
6 調査担当者	和根崎剛
7 発掘作業員	新井邦雄、川上京子、川上恒夫、滝澤百合香、村松秋恵

遺跡の環境と経過

上田市には国史跡信濃国分寺跡が所在し、初期国府も設置されていたと推定されているが、遺構等の確認には至っていない。工事計画地は現在の信濃国分寺伽藍の東側・字堂浦に位置する。国分寺本堂北側の市道建設工事に伴う発掘調査では、古代の道路遺構や瓦、土師器、須恵器、施釉陶器、銅杖鋳型、鍛冶関連遺物が出土した (上田市教委 2002)。『上田市の原始・古代文化』によると、調査地点付近は「後・晩期の土師・須恵器、施釉陶器の破片が濃密に分布し」、「信濃国分寺跡との関係が予想される」とあり、かねてから関連施設の存在が想定されてきた区域である。

本試掘調査は個人住宅の新築にあたって、施工業者から埋蔵文化財包蔵地の照会があったことに起因する。分布図を照会した結果、包蔵地内での工事であることが判明したため、直ちに関係者と協議を行った。その結果、計画地は旧地表面から 0.8 m 程度盛土がされているものの、表層改良による掘削が地下 1.2 m まで及ぶことから、事前に試掘調査を実施して、埋蔵文化財が発見された場合には再度協議することで合意した。

調査の結果

I ~ 3 号トレンチ (T r 0 1 ~ 0 3) を設定して試掘調査を行った結果、平安時代の遺構・遺物及び縄文土器を検出した。

T r 0 1 では地下 1.2 m 付近に地山層を検出した。直上に黒褐色土層があり、平安時代の遺物が含まれる。トレンチ北側一帯で土師器坏がまとまって出土した。坏は完形品のほか、破損の少ないものが多い。この箇所は建物跡 (第 1 号竪穴建物跡) と考えられるが、黒褐色土中で遺構が完結し、平面プランや硬化した床面が判明しなかった。また、トレンチ南側では黒褐色土の落ち込みが発見され、ここからは土師器などに混じって、鉄製刀子の破片が出土した (第 2 号竪穴建物跡)。

このように、T r 0 1 で遺構・遺物が発見されたため、急速、住宅建築範囲に任意の幅で T r 0 2 を設定して調査したところ、カマド跡と推定される遺構を発見した (第 3 号竪穴建物跡)。

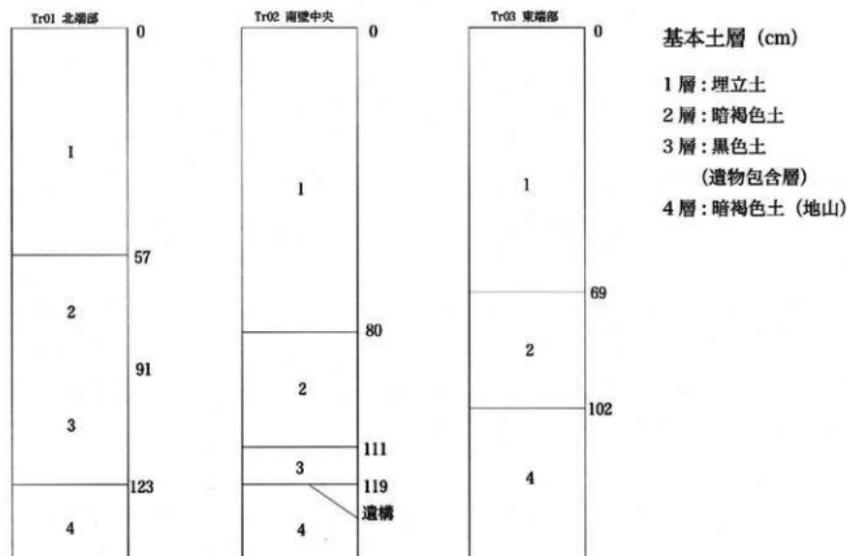
ただちに関係者協議を現地にて実施し、表層改良を実施する区域は遺構を完掘して記録を残し、他の部分は盛土が厚く掘削が及ばないことから、現地で埋蔵文化財の保存を図った。

出土遺物 (埋蔵物発見届: 22 文第 34 号)

主に平安時代の遺物 (第 11 図) が出土した。遺物は 9 世紀後半から 10 世紀代のものと考えられる。第 1 号竪穴建物跡で出土した多量の土師器坏が目され、成形が雑なものが多く見られる。また、第 2 号竪穴建物跡からは外面赤色塗彩の土師器坏 (6) や鉄製刀子 (12、13)、第 3 号竪穴建物住居跡からは土師器坏、碗、古代の瓦片等が出土した。包含層の遺物は小片が多く磨耗も著しいが、内外面黒色土器 (11) のほか、土師器、須恵器、灰釉陶器の小片、古代の瓦片が含まれていた。



試掘調査位置図 (S=1/5,000)



第1図 国分遺跡群1 (個人住宅新築工事)

(2) 萩の館跡推定地 (市遺跡番号 真田 147)

1 調査地	上田市真田町傍陽
2 原因	傍陽小学校校舎移転改築 (法第 94 条)
3 調査日	平成 22 年 4 月 17 日 (土)
4 調査方法	0.2 級バックホーで幅約 1 m のトレンチを 3 本掘削した
5 調査面積	2,926 m ² (トレンチ 15 m ²)
6 調査担当者	和根崎剛

遺跡の環境と経過

上田市立傍陽小学校は市指定史跡・洗馬城跡の麓に位置し、その校地はかつて旧傍陽村役場や公民館が所在した、村の中心地である。「真田町誌」歴史編の編纂に際し、町誌編纂室や中世執筆担当委員らにより校地周辺が調査され、水路の配置や「堀の内」「くら屋敷」等の地名が残ることから、小学校とその周辺を洗馬城に付属する館跡と推定した。ただし、館主等の詳細については記録が少なく不明であり、館の遺構もこれまでに明確なものは確認されていないため、遺跡としては推定地の域を脱していない。考古学的な調査は今回が初めてである。

本件は、長野県教育委員会「平成 22 年度以降の公共事業に係る埋蔵文化財等の保護について (照会)」に基づく、上田市教育委員会真田地域教育事務所からの回答を確認したところ、包蔵地内で校舎を移転新築する計画があることが判明したため、保護協議を実施した。その結果、事前に試掘調査を実施し、埋蔵文化財が発見された場合には再度協議することで合意した。

調査の結果

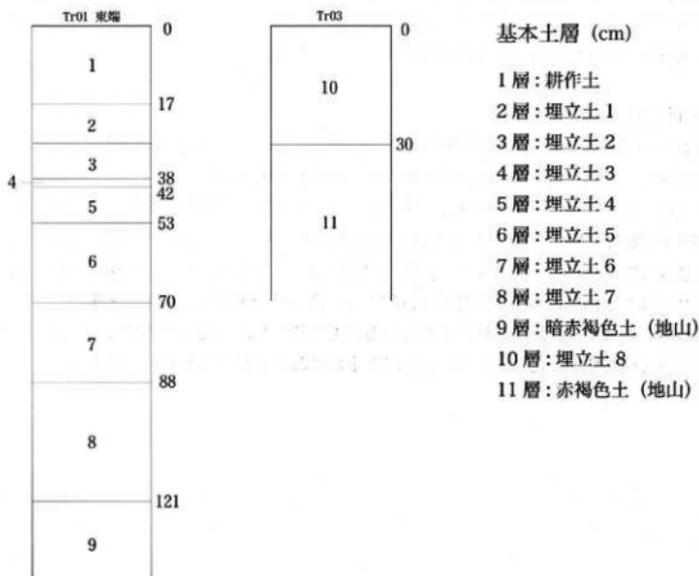
児童の安全等を考慮し、調査を休校日に実施した。季節外れの降雪により調査は難航した。校舎新築予定地のうち、花壇、畑などで掘削が可能な場所を選んで調査を行った。

1～3号トレンチ (T r 0 1～0 3) を設定して試掘調査を実施した結果、T r 0 1・0 2では地下 1.6 m 付近に地山層を検出したが、遺構・遺物は確認できなかった。地山層の直上に旧表土 (耕作土か) と推定される黒褐色土層が確認され、校地の南東区域は厚く埋土がされていることが明らかとなった。

T r 0 3は校地南側にある正門付近に掘削した。地下 0.3m 付近に地山層を確認した。周辺は樹木や記念碑設置などにより、地下が攪乱されていることを確認した。現在の地形になる前には東側に向かって低くなっていた地形を切り盛りして、平坦な土地に改変したものと考えられよう。



試掘調査位置図 (S=1/5,000)



第2図 萩の館跡推定地 (傍陽小学校校舎改築工事)

(3) 八幡裏遺跡群 1 (市遺跡番号 上田 64)

1 調査地	上田市緑ヶ丘一丁目
2 原因	個人住宅改築 (法第 93 条)
3 調査日	平成 22 年 4 月 21 日 (水)
4 調査方法	0.2 級バックホーで幅約 1 m のトレンチを 1 本掘削した
5 調査面積	375.55 m ² (トレンチ 10 m)
6 調査担当者	和根崎剛

遺跡の環境と経過

八幡裏遺跡群は、太郎山南麓の黄金沢とその他の小河川により形成された扇状地端部に位置する。『上田市の原始・古代文化』によると、工事計画地付近には、思川遺跡・大泉前遺跡・海善寺裏遺跡・新田遺跡・道祖神遺跡・八幡東遺跡・八幡裏遺跡が所在する。従来、この遺跡群を上田市文化財分布図に基づき「八幡裏遺跡」と称していたが、「八幡裏遺跡群」と改めることとする (上田市教委 2010c)。八幡裏遺跡群では、病院や道路建設に伴う発掘調査が 6 次にわたって行われており、縄文時代から平安時代までの遺構・遺物が確認されている (上田市教委 1995、1997、1998、1999a、1999b、2001)。

本試掘調査は個人住宅の新築にあたって、施工業者から埋蔵文化財包蔵地の照会があったことに起因する。分布図を照合した結果、包蔵地内での工事であることが判明したため、直ちに関係者と協議を行った。その結果、これまでの発掘調査の結果から、計画地においても地下 1 m 以下から埋蔵文化財が発見される可能性が非常に高く、地下の状況を確認するために、事前に試掘調査を実施して、万一、施工に際して埋蔵文化財まで影響が及ぶようであれば、再度協議することで合意した。

調査の結果

1 号トレンチ (T r 0 1) を設定して試掘調査を行った結果、地下 1.9 m 付近から地山層を検出し、その上に 0.4 m の層厚で遺物包含層である黒色土層を確認した。黒色土層の上には 1.5 m 程度土砂が堆積している。これは複数に分層が可能な土砂であるが、人頭大の石や砂礫が多く見られることから、河川や土石流などに起因する堆積土であると思われる。調査の結果、今回の工事に伴う掘削は埋蔵文化財に影響が及ばないことが判明したため、現地保存を図った。

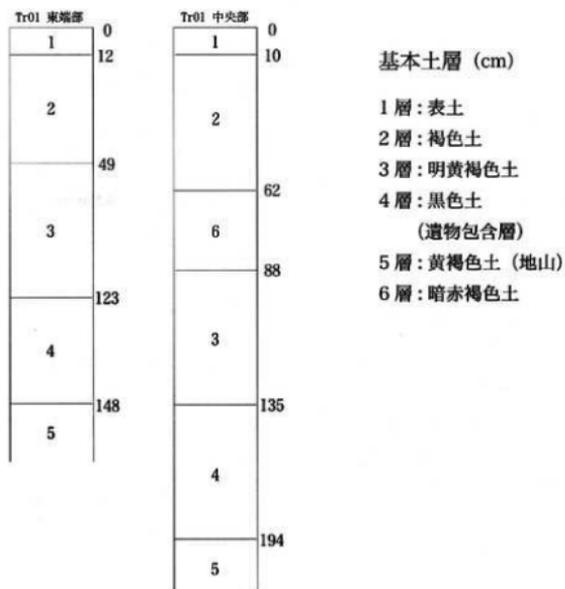
以上の経過をふまえ、施工業者には、万一設計変更等があった場合には改めて保護協議を行なうことをお願いして試掘調査を終了した。

出土遺物 (埋蔵物発見届：22 文第 53 号)

小片で磨耗が著しいため、図化しえなかったが、縄文土器、古墳時代及び平安時代の土器器が出土した。すべて包含層からの出土で遺構には伴っていない。



試掘調査位置図



第3図 八幡裏遺跡群1 (個人住宅改築工事)

(4) 常入遺跡群 I (市遺跡番号 上田 57)

1 調査地	上田市常田
2 原因	店舗及びアスファルト敷駐車場の改築 (法第 93 条)
3 調査日	平成 22 年 4 月 23 日 (金)
4 調査方法	0.2 級バックホーで幅 1 m のトレンチを 2 本掘削した
5 調査面積	2,176.48 m ² (トレンチ 15 m ²)
6 調査担当者	和根崎剛

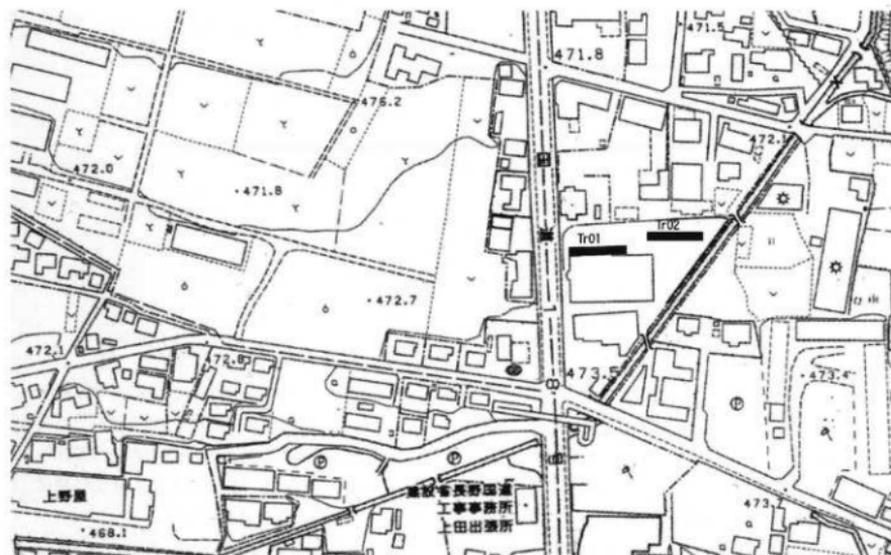
遺跡の環境と経過

常入遺跡群は常田池の周辺に広がる遺跡群で、『上田市の原始・古代文化』には、「信州大学繊維学部敷地の中央部から、常田池の南方にかけて、東西およそ 650 m、南北およそ 400 m の広範囲な地籍に、繊維学部敷地から常田池の西方にかけて、北部で下町田・上町田の 2 遺跡、中央部で中村・西町田・東町田の 3 遺跡、段丘端に接する南部で手筒山・藤ノ森の 2 遺跡」があり、「いずれも弥生後期の箱清水式土器、前期から晩期にわたる土師・須恵器を出土し、一体の遺跡と思われる」とある。

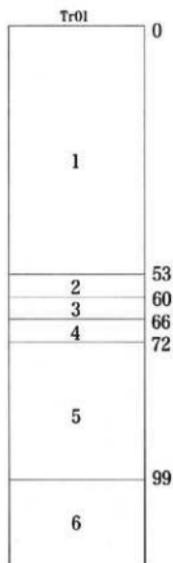
本件は店舗の改築にあたって、施工業者から埋蔵文化財包蔵地の照会があったことに起因する。分布図を照合した結果、包蔵地内での工事であることが判明したため、直ちに関係者と協議を行った。その結果、国道 18 号線を挟んで隣接する、信州大学繊維学部敷地内で埋蔵文化財が確認されていることから、事前に試掘調査を実施して、地下の状況を確認することとした。

調査の結果

1～2号トレンチ (T r 0 1～0 2) を設定して調査を行った。両トレンチとも地下 1.0～1.4 m 程度に地山が認められたが、遺構・遺物は確認できなかった。もとは水田だったらしく、旧耕作土と推定される土層が見られ、その上に 1.0 m 程度の盛土をして現状の平坦な地形にしていることが確認できた。



試掘調査位置図 (S=1/5,000)



基本土層 (cm)

- 1層: 埋立土
- 2層: 暗赤褐色土
- 3層: 黒灰色土
- 4層: 暗黄灰色土
- 5層: 暗褐色土
- 6層: 赤褐色土 (地山)

第4図 常入遺跡群 (店舗及びアスファルト敷駐車場改築工事)

(5) 染屋台条里水田跡遺跡 (市遺跡番号 上田 52)

1 調査地	上田市古里字篠井原
2 原因	集合住宅及びアスファルト敷駐車場の新築 (法第 93 条)
3 調査日	平成 22 年 5 月 21 日 (金)
4 調査方法	0.4 級バックホーで幅 1m のトレンチを 1 本掘削した
5 調査面積	1,404 m ² (トレンチ 21 m ²)
6 調査担当者	和根崎剛

遺跡の環境と経過

染屋台条里水田跡遺跡は市街地の北東部に広がる条里水田遺跡で、千曲川と神川によって形成された河岸段丘上に位置する。この台地は通称染屋台と呼ばれており、上田市文化財分布図では台地全体を条里水田遺跡として括っているものの、一部を除いて詳細な分布調査はなされていない。しかし、大規模開発事業等に伴う発掘調査や試掘調査等によって、幾つかの集落遺跡等が確認されており、少しずつではあるが台地上の遺跡の状況が把握されつつある (第 四・表 1)。

本件については、上田市役所関係各課参集のうえで開発事業届に係る現地調査を行い、文化財保護の立場から事業者計画地に包蔵地の範囲内であることを伝え、保護協議を実施した。その結果、既にほ場整備が済んだ水田であり、計画地のほとんどを盛土して整地することから、まず建物建設範囲付近を試掘して地下の状況を確認し、その結果に応じてトレンチを追加することとした。

調査の結果

本件については、計画地が染屋台の段丘東端部に位置するため、条里制遺構の所在とその範囲を確認することを主な目的とした。

まず、計画地の東西を横断する 1 号トレンチ (T r 0 1) を設定して調査を行った。その結果、地下 0.4 m 程に地山を確認したが、遺構、遺物は発見されなかった。一帯が地山層までの深さが浅く、現在の水田耕作により、条里制遺構が存在する可能性が極めて低いことが判明したため、調査を終了した。

かつて近接する箇所を試掘調査を行った際に、地下 1.0 m 程下から、ほ場整備前の水田の畦が発見された事例があった。相当な上量の盛土をして造成されたためであろう。今回の調査地点周辺は地山層が浅く、水田造成の際に地中が攪乱されたものと考えられる。



試掘調査位置図 (S=1/5,000)



第5図 染屋台条里水田跡遺跡 (集合住宅及びアスファルト敷駐車場新築工事)

(6) 国分遺跡群 2 (市遺跡番号 上田 54)

1 調査地	上田市国分字干池
2 原因	市道建設に係る個人住宅移転改築 (法第 93 条)
3 調査日	平成 22 年 6 月 9 日 (水)
4 調査方法	0.2 級バックホーで幅任意のトレンチを 2 本掘削した
5 調査面積	659.42 m ² (トレンチ 22 m ²)
6 調査担当者	和根崎剛

遺跡の環境と経過

遺跡の環境については前述したため省略する。

工事計画地は現在の信濃国分寺伽藍の東側・字干池に位置する。『上田市の原始・古代文化』によると、調査地点付近は「後・晩期の土師・須恵器、施釉陶器の破片が濃密に分布し」、「信濃国分寺跡との関係が予想される」とあり、かねてから関連施設の存在が想定されてきた区域である。

本件は個人住宅の改築にあたって、施工業者から埋蔵文化財包蔵地の照会があったことに起因する。分布図を照会した結果、包蔵地内での工事であることが判明したため、直ちに関係者と協議を行った。その結果、基礎工事の際に表層改良による掘削が地下 1 m 程度まで及ぶことから、事前に試掘調査を実施して、埋蔵文化財が発見された場合には再度協議することで合意した。

調査の結果

1～2号トレンチ (T r 0 1～0 2) を設定して試掘調査を行った結果、遺構・遺物は検出されなかった。

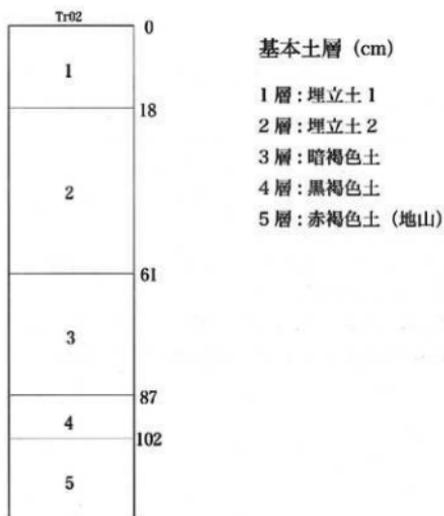
T r 0 1 では地下 1 m 付近に地山層を検出した。計画地は水田に盛土をして宅地にしたもので、現在は更地になっている。かつては蚕室があり、半地下式の建物だったとのことで、トレンチの北半分で半地下の部分埋め立てと思われる黒色土が検出された。掘削中、湧水がひどくなり、トレンチ壁面の崩壊等が心配される状況になったため、ポンプで排水のうえ直ちに埋め戻した。

T r 0 2 も地山層までの深さは地下 1 m 付近であった。水田由来の土層と、水田を埋めた際の盛土が検出されたが、遺構・遺物は発見されなかった。

住宅を建築する区域から遺構・遺物は発見されていないが、隣接する市道の改良工事が予定されている範囲では、土師器の破片が散見されるため、保護措置に十分留意する必要がある。



試掘調査位置図 (S=1/5,000)



第6図 国分遺跡群 (市道改築に係る個人住宅改築工事)

(7) 八幡裏遺跡群 2 (市遺跡番号 上田 64)

1 調査地	上田市緑ヶ丘一丁目
2 原因	工場解体及び商業用地の造成 (法第 92 条)
3 調査日	平成 22 年 10 月 6 日 (水)、7 日 (木)、11 月 25 日 (木)
4 調査方法	0.4 級バックホーで幅約 1 m のトレンチを 9 本掘削した
5 調査面積	9,000 m ² (トレンチ 150 m ²)
6 調査担当者	和根崎剛

遺跡の環境と経過

遺跡の環境については前述したため省略する。

本件は工場建物の解体と、跡地を商業用地として利用するための造成工事に伴う試掘調査で、平成 20～21 年度にかけて 2 回の試掘調査を実施してきた (上田市教委 2009C、2010C)。これまでに合計 19 本のトレンチを掘削し、計画地内の埋蔵文化財の分布状況を絞ってきたが、今回、工場建物の解体に着手したことから、これまでの調査の結果をふまえて、より詳細な範囲を確認するために、解体の状況に合わせて 2 回に分けてトレンチ調査を行った。

これまでの調査により、計画地の西部及び南部には古墳時代の竪穴建物跡などの遺構が存在することが判明していたため、今回は遺構の残存範囲がどの程度の範囲なのかということの確認を行った。また、北部及び東部からはこれまでの試掘の際に土器片などの遺物が一部で採集されていたため、遺構の確認を目的として、前回までに掘削ができなかった建物敷部分の地下の状況を確認することとした。

調査の結果

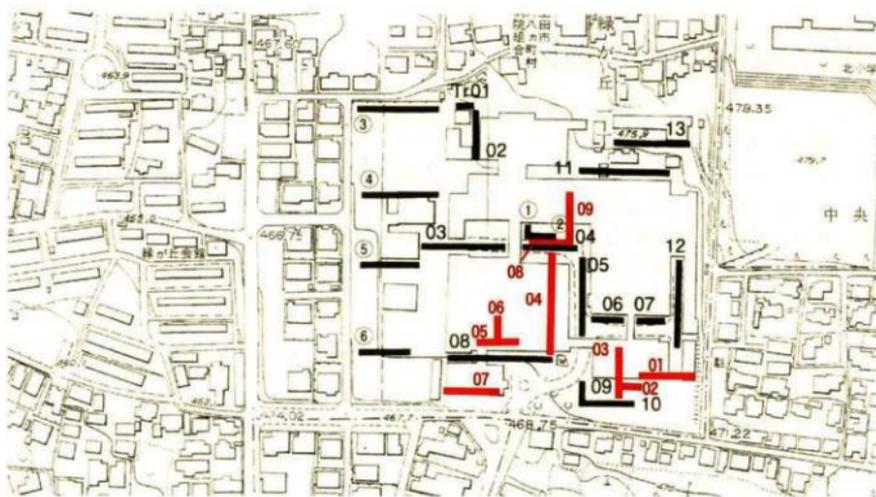
解体した工場建物の地下の状況を確認するために、新たに 1～9 号トレンチ (Tr 01～09) を設定して調査を行った。その結果、建物基礎や貯水槽等により最大約 2.5m 地下まで既に攪乱されていることが判明した。そのため、建物が所在した区域には遺構・遺物は既に存在しないものと考えられた。しかし、Tr 03、05、06、07 の調査中に、計画地南側一帯は埋め立てをして建物を建設していることが判明し、地下 1.5～2.0m に遺物包含層が残っていることも確認した。一部のトレンチからは、竪穴建物跡の一部や、縄文土器、古墳時代の土師器の破片が検出された。

これまでの調査結果から、遺構が存在する範囲は第 4 図のように推定された。

以上の経過をふまえ、土地所有者には造成工事に着手する前に再度協議を行い、建物の設計行うにあたり、埋蔵文化財の保護措置を講じるよう依頼して試掘調査を終了した。

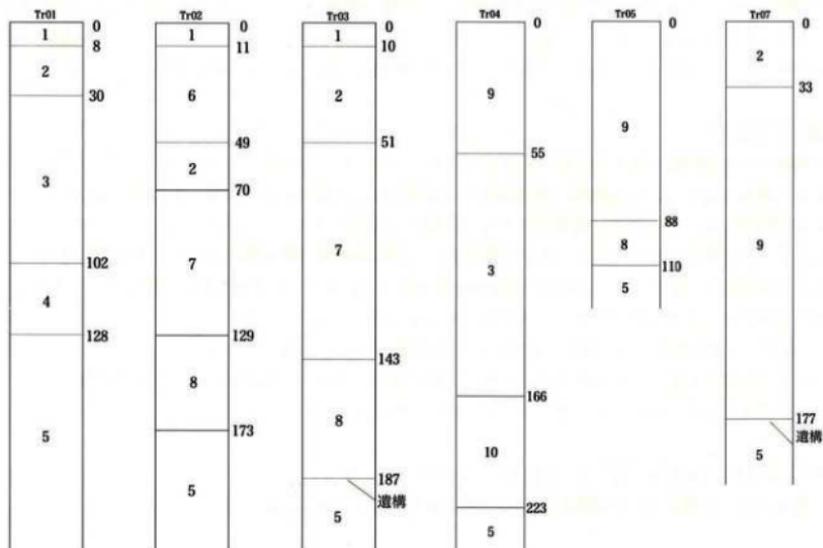
出土遺物 (埋蔵物発見届: 22 文第 354、413 号)

縄文土器、古墳時代の土師器が出土したが、図化し得たものはなかった。



試掘調査位置図

※赤い数字が今回の調査トレンチである。なお、丸囲み数字は平成20年度、数字のみは平成21年度調査トレンチである。



基本土層
(cm)

1層：碎石、2層：埋立土1、3層：埋立土2、4層：暗褐色土、
5層：暗黄褐色土（地山）、6層：埋立土3、7層：埋立土4、
8層：黒色土（遺物包含層）、9層：埋立土5、10層：黒褐色土

第7図 八幡裏遺跡群2（工場建物解体及び商業用地造成予定地）

(8) 新田遺跡 (市遺跡番号 上田 223)

1 調査地	上田市中野字新田
2 原因	老人福祉施設予定地の造成 (法第 92 条)
3 調査日	平成 22 年 12 月 20 日 (月)
4 調査方法	0.2 級バックホーで幅約 1 m のトレンチを 2 本掘削した
5 調査面積	1,600.95 m ² (トレンチ 25 m ²)
6 調査担当者	和根崎 剛

遺跡の環境と経過

新田遺跡は『上田市の原始・古代文化』には、「塩田中学校の南方にあり、およそ 6,000 m²にわたって、後期の土師・須恵器が出土する」とあり、「上田市文化財分布図」には平安時代の遺跡として登録されているが、遺跡の明確な範囲はつかめていなかった。

本件は老人福祉施設の新築に際し、事前に土地を造成したいとのことで、施工業者から埋蔵文化財包蔵地の照会があったことに起因する。計画地の現況は水田である。分布図を照合した結果、包蔵地内での工事であることが判明したため、直ちに関係者と協議を行った。その結果、周囲で試掘調査の実績がなく、遺跡の範囲が不明確であったことから、事前に試掘調査を実施して、地下の状況を確認することとした。

調査の結果

調査区内に 1～2 号トレンチ (T r 0 1～0 2) を設定した。地下 0.6～1.0 m 程度掘り下げると地山層が確認できたが、遺構・遺物は検出されなかった。

以上の経過をふまえ、発掘調査は実施しないこととし、試掘調査を終了した。



試掘調査位置図 (S=1/5,000)

Tr01	基本土層 (cm)
0	
1	1層: 水田耕作土
19	2層: 黒褐色土
2	3層: 暗褐色土
42	4層: 暗灰褐色土
3	5層: 暗褐色土 (地山)
68	
4	
103	
5	

第8図 新田遺跡 (老人福祉施設建設予定地)

(9) 四日市遺跡 (市遺跡番号 真田 115)

1 調査地	上田市真田町長字蓮台
2 原因	宅地造成
3 調査日	平成 22 年 1 月 11 日 (火)
4 調査方法	0.2 級バックホーで幅 1 m のトレンチを 2 本掘削した
5 調査面積	230 m ² (トレンチ 18 m ²)
6 調査担当者	和根崎 剛

遺跡の環境と経過

四日市遺跡は、真田地域自治センターの一角に占地する、縄文時代前期・中期、古墳時代後期、平安時代の集落跡であり、平成元年以降、公共施設及び県営ほ場整備事業に伴う発掘調査が実施され、多くの竪穴建物跡や遺物を出土した(真田町教育委員会 1990、1996、1997)。遺跡は 10,000 m² を超える広範囲なものであるが、宅地化や公共施設の建設により、その範囲はもはや明確ではない。発掘調査の結果、各時代により集落が移動していることが判明しており、今回の調査地の隣接地で平成 14 年に行った発掘調査では、縄文時代中期、平安時代の遺構・遺物が出土している(同 2003)。

本件については、上田市役所公有財産管理課から、公有地の売却に際し、埋蔵文化財の保護について相談があったため、ただちに保護協議を行った。その結果、試掘調査を実施し、遺構・遺物が発見された場合には再度協議することで合意した。

調査の結果

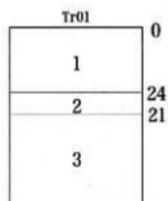
調査区内に 1～2 号トレンチ (T r 0 1～0 2) を設定して調査を行った。地下 0.2～0.3m 程度掘削すると地山が現れた。発掘調査の際に見られた遺物包含層は今回は検出されなかった。かつて真田町警察官駐在所に付属する木造住宅が所在した場所であり、既に地下は建物基礎による掘削がされており、遺構・遺物は確認できなかった。

また、建物敷の地下以外についても、排水溝や水道管等による攪乱が著しかった。遺物が全くなく、隣接地の調査結果と大きく異なることから、住宅造成の際に削平により、遺物包含層を既に失っていたことが予想される。

以上の経過をふまえ、発掘調査は実施しないこととし、試掘調査を終了した。



試掘調査位置図 (S=1/5,000)



基本土層 (cm)

1層: 表土

2層: 黒褐色土

3層: 暗褐色土 (地山)

第9図 四日市遺跡 (宅地造成予定地)

(10) 小泉条里水田跡遺跡 (市遺跡番号 上田 441)

1 調査地	上田市小泉
2 原因	上田市川西地域自治センター及び川西公民館の改築 (法第 92 条)
3 調査日	平成 22 年 2 月 1 日 (火)
4 調査方法	0.2 級バックホーで幅約 1 m のトレンチを 1 本掘削した
5 調査面積	135 m ² (トレンチ 12 m ²)
6 調査担当者	和根崎 剛

遺跡の環境と経過

小泉条里水田跡遺跡は浦野川右岸の谷平野に占地し、小泉地籍を中心に仁古田、吉田の一部まで含む範囲に広がっている。昭和 62 年に県営ほ場整備事業に伴い、事前の発掘調査が行われたが、埋没水田面や畦畔、水路等の条里的地割りに関する遺構は発見されなかった。また、合わせてプラントオパール検出法による土壌サンプルの分析を実施したが、一部で多量のプラントオパールが検出されたものの、条里水田に関わる遺構の同定には至らなかった (上田市教育委員会 1989)。築屋台条里水田跡でも同様であるが、条里水田の存在が推定される場所であっても、遺構が良好に保存されている事例は稀なものと考えられる。

本件は、長野県教育委員会「平成 23 年度以降の公共事業に係る埋蔵文化財等の保護について (照会)」に基づく、上田市川西地域自治センターからの回答を確認したところ、包蔵地内にセンターおよび川西公民館を改築する計画があることが判明したため、保護協議を実施した。その結果、事前に試掘調査を実施し、埋蔵文化財が発見された場合には再度協議することで合意した。

調査の結果

調査区内に 1 号トレンチ (T r 0 1) を設定して調査を行った。地下 0.5m 程度掘削すると地山が現れた。排水のための暗渠工事が施工されているなど、地下は既に掘削がされており、遺構・遺物は確認できなかった。



試掘調査位置図 (S=1/5,000)



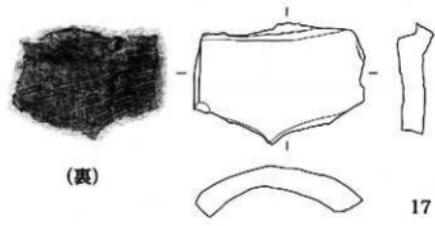
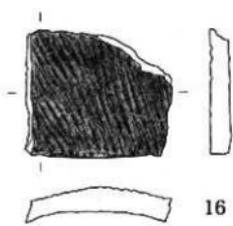
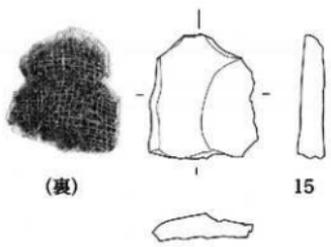
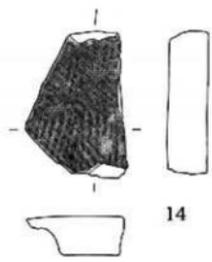
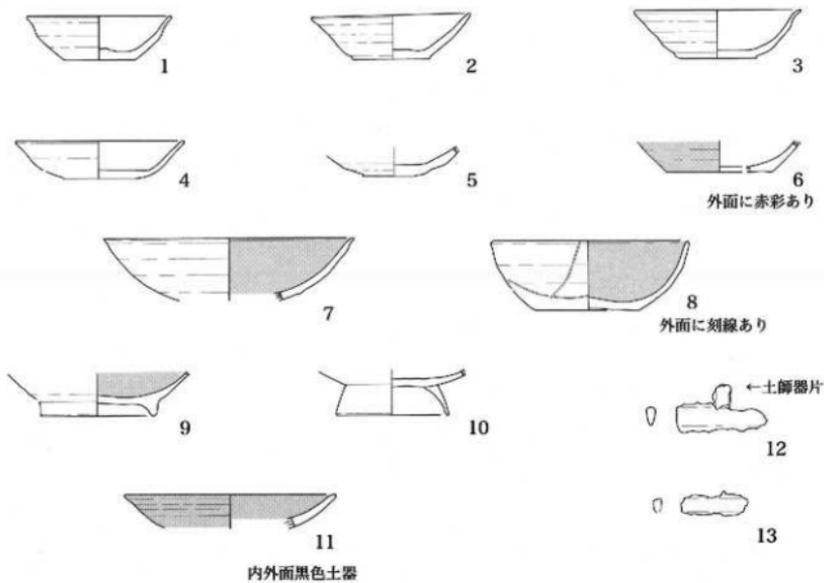
基本土層 (cm)

1層: 水田耕作土

2層: 灰褐色土

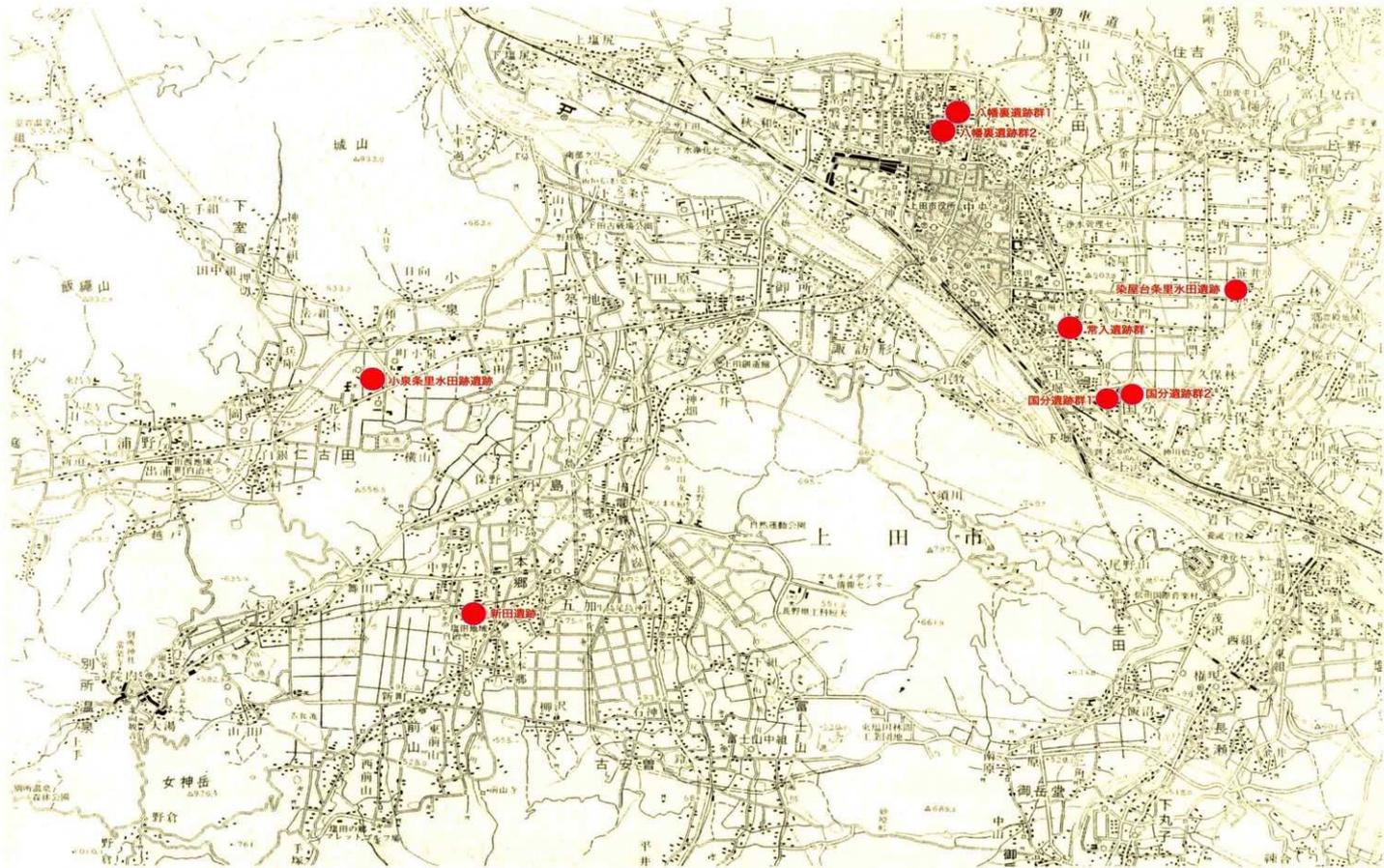
3層: 明褐色土 (地山)

第 10 図 小泉条里水田跡遺跡 (上田市川西地域自治センター及び川西公民館改築予定地)

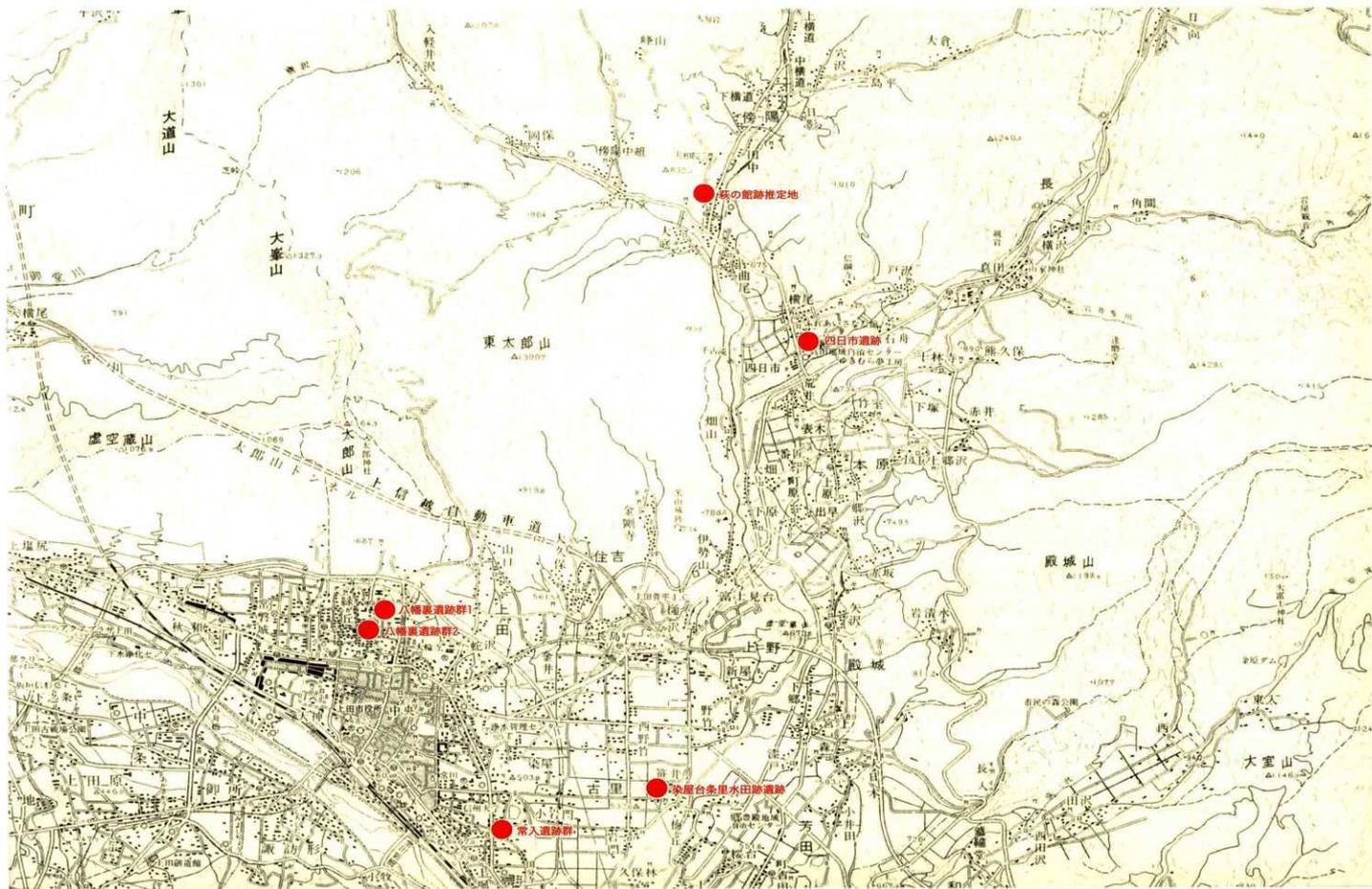


第11図 試掘調査出土遺物 (S=1/3)





第12図 試掘調査実施遺跡位置図(その1)



第13図 試掘調査実施遺跡位置図 (その2)

No.	年度	遺跡名	調査結果	備考
1	S58	国府推定地確認調査Ⅰ(※1)	古墳後期の遺構・遺物	
2	S59	国府推定地確認調査Ⅱ	西之手遺跡	
3	S60	国府推定地確認調査Ⅲ・A地点	弥生・古墳前期と後期の土器片	
4	S60	国府推定地確認調査Ⅲ・B地点	中世前期の陶磁器片	
5	S61	国府推定地確認調査Ⅳ	なし	
6	S62	国府推定地確認調査Ⅴ・B地点	なし	
7	S62	国府推定地確認調査Ⅴ・D地点	古墳後期の遺物	
8	S62	国府推定地確認調査Ⅴ・E地点	古墳後期の遺構・遺物	
9	S62	国府推定地確認調査Ⅴ・G地点	なし	
10	H2	柳町遺跡	古墳後期の遺構・遺物	
11	H4	柳町遺跡	なし	10と同じ遺跡
12	H6	染屋台条里水田跡遺跡	遺構・遺物等確認	古城遺跡として調査
13	H7	染屋台条里水田跡遺跡1	遺構・遺物等確認	大畑遺跡として調査
14		染屋台条里水田跡遺跡2	なし	
15		染屋台条里水田跡遺跡3	なし	
16		染屋台条里水田跡遺跡4	遺構・遺物等確認	古城遺跡として調査
17	H8	西之手遺跡	遺構・遺物等確認	西之手遺跡として調査
18		染屋台条里水田跡遺跡	なし	
19		上沖遺跡	遺構・遺物等確認	上沖遺跡として調査
20		大畑遺跡	中世前期の遺構・遺物	13と同じ遺跡
21	H9	染屋台条里水田跡遺跡Ⅰ	なし	
22		染屋台条里水田跡遺跡	遺構・遺物等確認	西之手遺跡
23		染屋台条里水田跡遺跡Ⅱ	なし	
24		古城遺跡	平安後期の遺構・遺物	12・16と同じ遺跡
25	H10	上沖遺跡	平安後期・中世の遺構・遺物	19と同じ遺跡
26	H11	西之手遺跡	古墳中期～後期の遺構・遺物	17・22と同じ遺跡
27	H11	染屋台条里水田跡遺跡	なし	
28	H12	染屋台条里水田跡遺跡(1)	なし	
29		染屋台条里水田跡遺跡(2)	なし	
30		染屋台条里水田跡遺跡(3)	なし	
31	H13	染屋台条里水田跡遺跡1	なし	
32		染屋台条里水田跡遺跡2	なし	
33	H14	染屋台条里水田跡遺跡1	なし	
34		染屋台条里水田跡遺跡2	なし	
35		染屋台条里水田跡遺跡3	なし	
36		染屋台条里水田跡遺跡4	なし	
37		染屋台条里水田跡遺跡5	なし	
38	H15	染屋台条里水田跡遺跡1	なし	
39	H15	染屋台条里水田跡遺跡2	なし	
40	H15	染屋台条里水田跡遺跡3	なし	

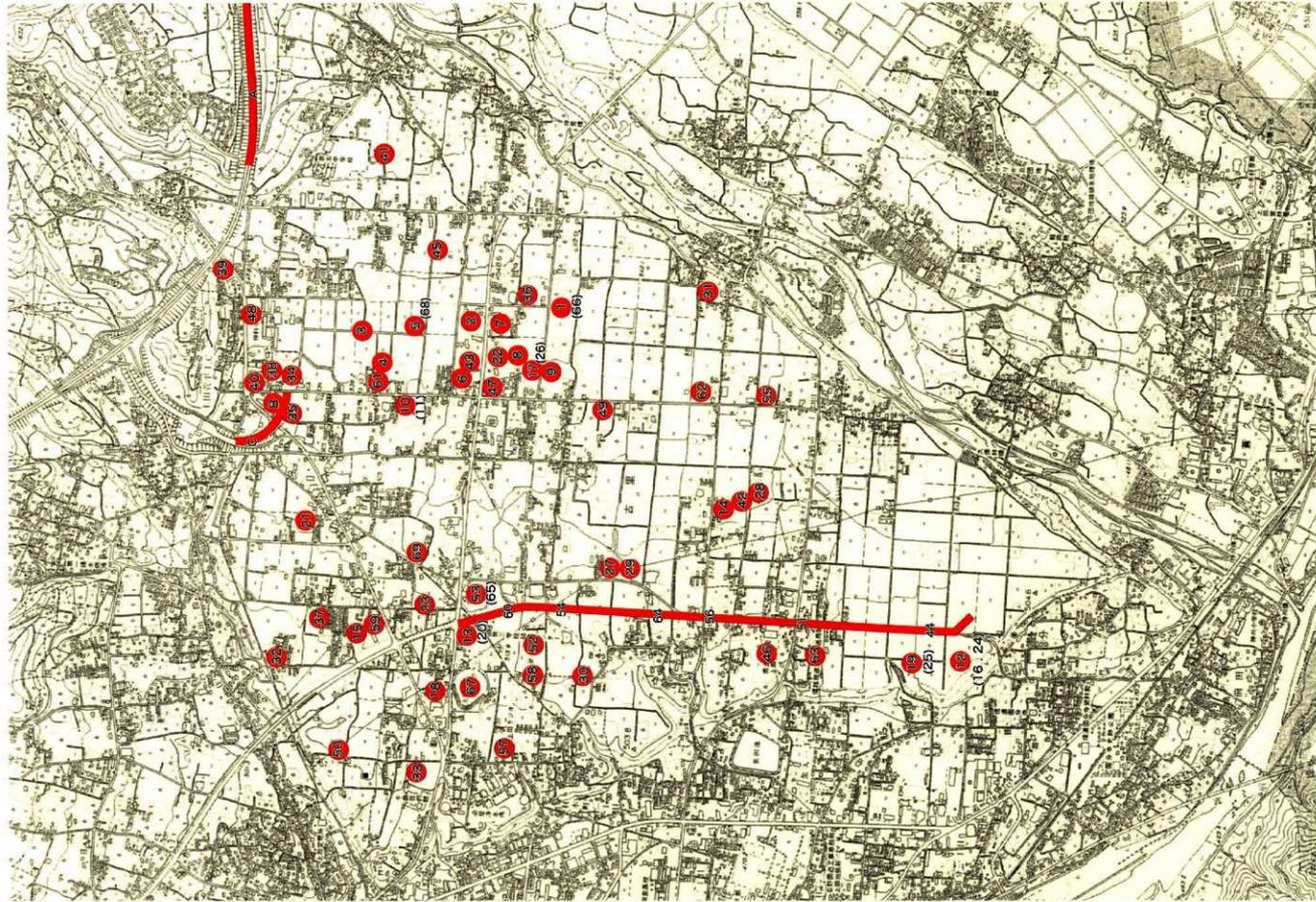
第1表 染屋台条里水田跡遺跡の調査状況(その1)

No.	年度	遺跡名	調査結果	備考
41	H16	染屋台条里水田跡遺跡1	なし	
42		染屋台条里水田跡遺跡2	なし	
43	H17	染屋台条里水田跡遺跡1	なし	
44		染屋台条里水田跡遺跡2	弥生後期・古墳後期の土器片	上田バイパス2期工事関連
45		染屋台条里水田跡遺跡3	なし	
46		染屋台条里水田跡遺跡4	土師器片	
47		西之手遺跡	古墳時代の土師器	
48		染屋台条里水田跡遺跡5	なし	
49		染屋台条里水田跡遺跡6	なし	
50		染屋台条里水田跡遺跡7	なし	
51	H18	染屋台条里水田跡遺跡1	なし	上田バイパス2期工事関連
52		染屋台条里水田跡遺跡2	なし	
53		染屋台条里水田跡遺跡3	なし	
54		染屋台条里水田跡遺跡4	なし	上田バイパス2期工事関連
55		染屋台条里水田跡遺跡5	なし	
56		染屋台条里水田跡遺跡6	なし	上田バイパス2期工事関連
57	H19	染屋台条里水田跡遺跡1	なし	
58		染屋台条里水田跡遺跡2	なし	
59		染屋台条里水田跡遺跡3	なし	
60		染屋台条里水田跡遺跡4	なし	上田バイパス2期工事関連
61		染屋台条里水田跡遺跡5	古墳後期の遺構・土師器片	10・11と同じ遺跡か？
62		染屋台条里水田跡遺跡6	なし	
63		染屋台条里水田跡遺跡7	なし	
64		染屋台条里水田跡遺跡8	なし	上田バイパス2期工事関連
65	H20	染屋台条里水田跡遺跡	なし	
66	H21	染屋台条里水田跡遺跡1	なし	西之手遺跡
67		染屋台条里水田跡遺跡2	なし	
68		染屋台条里水田跡遺跡3	なし	
69		染屋台条里水田跡遺跡4	なし	
70	H22	染屋台条里水田跡遺跡	なし	
A	H5	染屋台条里遺跡	なし	上信越自動車道関連（長野県埋蔵文化財センター調査）
B		染屋台条里遺跡	なし	
C	H6	染屋台条里遺跡	なし	

※1 「創設の信濃国府跡推定地確認調査」の略。以下同じ。

（報告書等で確認できる調査について記載した。なお、参考にした報告書名等は略した。）

第2表 染屋台条里水田跡遺跡の調査状況（その2）



第 14 図 染屋台条里水田跡遺跡の調査状況

写真図版





国分遺跡群 1 1号トレンチ遺構検出作業



国分遺跡群 1 1号トレンチ土層堆積状況



国分遺跡群 1 2号トレンチ完掘状況



国分遺跡群 1 遺構検出状況



萩の館跡推定地 1号トレンチ完掘状況



萩の館跡推定地 1号トレンチ土層堆積状況



八幡裏遺跡群 1 号トレンチ完掘状況



八幡裏遺跡群 1 号トレンチ土層堆積状況



常入遺跡群 1 号トレンチ完掘状況



常入遺跡群 1号トレンチ土層堆積状況



染屋台条里水田跡遺跡 1号トレンチ完掘状況



染屋台条里水田跡遺跡 1号トレンチ土層堆積状況



国分遺跡群 2 2号トレンチ完掘状況



国分遺跡群 2 2号トレンチ土層堆積状況



八幡裏遺跡群 2 1号トレンチ完掘状況



八幡裏遺跡群 2 1号トレンチ土層堆積状況



八幡裏遺跡群 2 4号トレンチ完掘状況



八幡裏遺跡群 2 4号トレンチ土層堆積状況



八幡裏遺跡群 2 7号トレンチ完掘状況



八幡裏遺跡群 2 7号トレンチ土層堆積状況



八幡裏遺跡群 2 8号トレンチ完掘状況



八幡裏遺跡群 2 8号トレンチ土層堆積状況



新田遺跡 1号トレンチ完掘状況



新田遺跡 1号トレンチ土層堆積状況



四日市遺跡 2号トレンチ完掘状況



四日市遺跡 2号トレンチ土層堆積状況



小泉条里水田跡遺跡 1号トレンチ完掘状況



小泉条里水田跡遺跡 1号トレンチ土層堆積状況



←外面赤彩の环

←内外面黒色土器の皿

国分遺跡群 1 出土遺物 1 (土師器・須恵器・灰釉陶器)



国分遺跡群 1 出土遺物 2 (瓦片)

報告書抄録

ふりがな	しないいせき 市内遺跡		
副書名	平成22年度市内遺跡発掘調査報告書		
シリーズ名	上田市文化財調査報告書	シリーズ番号	第113集
編著者名	和根崎 剛		
編集機関	上田市教育委員会 (事務局：文化振興課 文化財保護係)		
所在地	〒386-0025 長野県上田市天神二丁目4番55号 電話 0268 (23) 6361		
発行年月日	平成23 (2011) 年3月25日		

ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード		調査開始日	調査対象及び 掘削面積 (㎡)		調査の原因	
		市町村	市遺跡番号					
① 国分遺跡群1	国分 堂浦	20203	上田	54	4月15日	361.05	127	個人住宅新築
② 萩の館跡推定地	傍隅 萩		真田	147	4月17日	2,926.00	15	小学校移転新築
③ 八幡裏遺跡群1	上田 字 道祖神		上田	76	4月21日	375.55	10	個人住宅新築
④ 常入遺跡群	常入 字 手筒山		上田	56	4月23日	2,176.48	15	店舗新築
⑤ 染屋台糸里水田跡遺跡	古里 字 篠井原		上田	52	5月21日	1,404.00	21	集合住宅新築
⑥ 国分遺跡群2	国分 干池		上田	54	6月9日	659.42	22	道路用地 (移転)
⑦ 八幡裏遺跡群2	上田 字 道祖神		上田	76	10月6日	9,000.00	150	商業用地予定地
⑧ 新田遺跡	中野		上田	223	12月20日	1,600.95	25	老人福祉施設予定地
⑨ 四日市遺跡	長 蓬台		真田	115	1月11日	230.00	18	宅地造成予定地
⑩ 小泉糸里水田跡遺跡	小泉		上田	441	2月1日	135.00	12	公共施設建設予定地

所収遺跡名	種別	主な時代	検出遺構	検出遺物	保護措置
① 国分遺跡群1	集落址	奈良～平安	住居跡	土師器、瓦片 ほか	住宅範囲を完掘
② 萩の館跡推定地	城館跡	中世～近世	なし	なし	
③ 八幡裏遺跡群1	集落址	縄文～平安	なし	縄文土器、土師器	現地で保存が可能
④ 常入遺跡群	集落址	弥生～古墳	なし	なし	
⑤ 染屋台糸里水田跡遺跡	糸里制遺構	弥生～近世	なし	なし	
⑥ 国分遺跡群2	集落址	奈良～平安	なし	なし	
⑦ 八幡裏遺跡群2	集落址	縄文～平安	住居跡	縄文土器、土師器	現地で保存が可能
⑧ 新田遺跡	集落址	平安	なし	なし	
⑨ 四日市遺跡	集落址	縄文～平安	なし	なし	
⑩ 小泉糸里水田跡遺跡	糸里制遺構	中世～近世	なし	なし	

要 約	上田市内において10ヶ所の埋蔵文化財包蔵地で試掘を実施した。上田バイパス第3期工事等により、染屋台糸里水田跡遺跡や国分遺跡群で住宅や商業施設関連の試掘調査件数が増加している。
-----	---

上田市文化財報告書 第113集

市内遺跡

平成22年度市内遺跡発掘調査報告書

発行 平成23年3月24日

発行者 上 田 市
上田市教育委員会

印刷 一喜堂印刷
